

I 仙台市標準学力検査結果と分析

1 全体としての傾向

全体としてみた場合、どの学年も全教科、期待正答率に達している。

基礎力については、4年生の国語、4・5年生の理科が約1ポイント下回った以外は、期待正答率を上回る結果になった。応用力については、3・4・5年生の国語で8～12ポイント下回った以外は、期待正答率を上回る結果になった。

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

5年生の社会をのぞく、全学年の社会・算数・理科について関心・意欲・態度の項目が期待正答率を上回った。特に、昨年度低い傾向にあった、5・6年生の理科については、改善される結果になった。国語に対する関心・意欲・態度は2・6年が期待正答率を10ポイント以上上回ったのに対し、3・4・5年生は、数ポイント下回る結果になった。

(2) 教科ごとの分析

- ・ 国語 : 「言語についての知識・理解・技能」は、全学年が期待正答率を大きく上回った。「話す・聞く能力」においては、5年生を除き、期待正答率を大きく上回った。「書く能力」においては2・6年生が期待正答率を大きく上回ったが、3・4年生が9～11ポイント下回る結果になった。「読む能力」は、3・4年生が期待正答率を下回った。問題の内容別にみると、「物語の内容を読み取る」問題(3・4・5年生)、「話し合いの内容を聞き取る」問題(5年生)、「説明文の内容を読み取る」問題(4・6年生)、「作文」(3・4年生)で、期待正答率を下回る学年があった。
- ・ 社会 : 4・5・6年ともすべての観点、領域で期待正答率を上回る結果になった。ただし、問題の内容別に見てみると「まちの地図の見方」(4年)、日本の水産業(6年)の問題の正答率が低かった。
- ・ 算数 : どの学年もすべての観点、領域で期待正答率を上回る結果になった。ただし、問題の内容別に見てみると「時計の読み取り」(3年)、いろいろな考え方でとく問題(4年)の正答率がやや低かった。
- ・ 理科 : 4・5・6年生ともほとんどの観点で期待正答率を上回ったが、4・5年生の「観察・実験の技能表現」は、期待正答率を下回っていた。5年生は昨年度「自然現象への興味関心」が低く、すべての領域で期待値を下回っていたが、本年度興味関心が期待値を9ポイント上回り、正答率も向上した。6年生についても、すべての観点で期待値、仙台市平均を大きく上回り、学力の向上がみられた。

(3) 2極化

- ・ 3年生・4年生では国語で評定3と判定された児童が減少し、評定1と判定された児童が増えており、2極化が進む傾向が見られる。同様に4年生の理科においても、60点未満の児童が増加しており、2極化の傾向が表れ始めている。
- ・ 5年生・6年生の国語と理科は、昨年度に比べ評定1と判定された児童が減少し、評定3の児童が増え、2極化が解消される傾向にある。

2 各学年の結果の分析

2年生の分析

(1) 国語

教科全体で正答率を見た場合、市平均正答率を2.8ポイント上回る結果だった。国語の基礎力、応用力を見た場合、基礎力は4ポイント上回っているものの応用力は3.9ポイント下回った。課題に沿って話し合おうとする力や事柄の順序を考えながら内容を読み取ることが苦手であることが分かった。

問題の内容別にみると、「話を聞き取る」「説明文を読み取る」「漢字を読む」「漢字を書く」「文章を書く」という内容の5項目中、4項目で市平均正答率を上回る結果だった。しかし、「話を聞き取る」だけは、仙台市の平均87.7を86.2とやや下回る結果となった。

正答率の分散状況は『満足・概ね満足』と判定された児童は86パーセントで、『努力を要する』と判定された児童は14パーセントだった。

(2) 算数

教科全体で正答率を見た場合、市平均正答率を1.7ポイント上回る結果となった。基礎力、応用力ともに市平均をそれぞれ、1.7ポイント、2.5ポイント上回っており、考える力が身に付いていることがわかった。

問題の内容別にみると、「100までの数」「数の大きさ比べ」「たしざん」「ひきざん」「3つの数の計算」「たしざん、ひきざんの問題」「ながさくらべ」「形」の8項目中、「数の大きさ比べ」「たしざん」は、市平均とほぼ同じ結果だったものの、その他6項目で市平均を上回る結果となった。

正答率の分散状況は、『満足・概ね満足』と判定された児童は、96パーセントを超えている。

3年生の分析

(1) 国語

教科全体で正答率を見た場合、期待正答率をわずかに上回ったものの、仙台市全体の平均正答率を基礎力で2.3ポイント、応用力で4.6ポイント下回る結果になった。

観点別にみると、市の平均をわずかに上回ったのは「言語についての知識・理解」のみで、「書く能力」や「読む能力」が下回っていることがわかる。問題の内容別で調べてみると、「作文」(9.4ポイント)、「説明文の内容の読み取り」(4.6ポイント)、「物語文の内容の読み取り」(4.3ポイント)の3つが、特に大きく下回っていることがわかった。

(2) 算数

教科全体で正答率を見た場合、平均正答率は期待正答率を大きく上回り、仙台市全体の正答率に対してもわずかながら上回る結果になった。昨年度、2学年のときも、全観点で仙台市の平均を上回っていたが、今年度はその差がはっきりと広がった。

問題の内容別にみると、「1万までの数」、「たし算の筆算」、「ひき算の筆算」、「たし算とひき算の問題」、「かけ算の問題」、「かけ算九九」、「長さ」、「いろいろな形」において、仙台市の平均より1～4ポイントほど上回っていた。ただし、「時計の読み取り」だけが、仙台市の平均を3.1ポイント下回っていることがわかった。

4年生の分析

(1) 国語

教科全体で正答率を見た場合、市平均正答率に3.8ポイント下回る結果だった。国語の基礎力・応用力を見た場合、国語の応用力は仙台市平均を5ポイント下回った。自分の考えを明確にし、簡単な組み立てを考えて書くことに課題が見られる。

問題の内容別にみると、7項目中4項目で期待正答率を上回る結果となった。その中でも、話し合いの内容の聞き取りや「漢字の読み・書き」の問題では、期待正答率を上回る正答率だった。しかし、物語の内容を読み取ると作文についての理解が不十分であり、市の平均を下回った。自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えて書くことに課題が見られる。個人別に見た到達度別人数比は、市全体に比べ「満足+概ね満足」で10ポイント下回り、同様に「努力を要する」と判定された児童も10ポイント上回った。

前年度の国語の「書くこと」に関する領域では、期待正答率が約1ポイント下回るにとどまり、今年度も同様に期待正答率を1ポイント下回る結果となった。しかし、前年度との比較でみると観点別の「書く能力」においては11ポイントも落ちている結果がでた。

(2) 社会

教科全体で正答率を見た場合、多くの問題で期待正答率を上回る結果だった。全体として、社会的事象への関心も高く、社会的思考の判断・資料の活用・知識理解も十分理解されているという判断ができる。到達度別人数比でも「満足+概ね満足」が7割を上回った。

(3) 算数

ほとんどの問題で期待正答率を上回る結果だった。しかし、「1000より大きい数」の問題や「箱の形」で期待正答率および仙台市の平均を下回る結果が出た。領域別正答率においても観点別正答率においても、十分力をつけてきていると判断できる結果が得られた。しかし、解答が50パーセント未満の児童が全体の2割おり、今後の大きな課題として取り上げていかなければならない。

(4) 理科

「日なたと日かげの温度」や「太陽の動き」などの問題では、期待正答率を下回る結果となり、科学的な

思考の学習の十分な定着が図れていないと共に、自然事象への興味・関心が低いことがうかがえる。

5年生の分析

(1) 国語

教科全体で正答率を見た場合、期待正答率とほぼ同等で仙台市平均正答率からは3ポイント下回った。基礎力では期待正答率を3ポイント上回ったが、仙台市平均正答率を3ポイント下回る結果となった。応用力に関しては、期待正答率では12ポイント、仙台市平均正答率では3ポイント下回った。

領域別に見た場合は、いずれも期待正答率とほぼ同等だが、「話すこと・聞くこと」が期待正答率を15ポイント下回っている。問題別に詳しく見ると、「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を書く」「物語の内容を読み取る」の問題において、正答率が低い傾向が見られた。「話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと」「場面の情景を、叙述を基に想像しながら読むこと」に課題が見られる。

(2) 社会

教科全体で正答率を見た場合、期待正答率を7ポイント、基礎力でも、期待正答率を7ポイント上回り、いずれも仙台市平均正答率とほぼ同等になっている。応用力においては、期待正答率を5ポイント上回っているが、仙台市平均正答率からは、1ポイント下回った。

領域別で見た場合は、どの領域も期待正答率、仙台市平均正答率を上回っている。問題別に詳しく見ると、「地形図の見方」の問題の正答率が下がっていた。「資料活用能力」に課題が見られる。

(3) 算数

教科全体で正答率を見た場合、期待正答率を7ポイント、仙台市平均正答率を1ポイント上回っている。基礎力、応用力ではいずれも期待正答率を7ポイント上回り、仙台市平均正答率とほぼ同等となっている。

領域別で見た場合は、5領域いずれも期待正答率を6～12ポイント上回り、仙台平均正答率を2ポイント上回った。問題別に詳しく見ると、「分数」「円と三角形」「折れ線グラフ」「計算のきまり」の問題では、1ポイントとわずかだが仙台市平均正答率を下回ったが、これらの問題も含めどの問題もみな期待正答率を上回った。

(4) 理科

教科全体の正答率と基礎力を見た場合、期待正答率、仙台市平均正答率ともにほぼ同等になっていた。応用力に関しては、期待正答率を11ポイント上回り、仙台市平均正答率からは1ポイント下回った。

領域別に見た場合は、「物質とエネルギー」が期待正答率、仙台市平均正答率ともにそれぞれ3ポイント下回ったが、他の領域では期待正答率、仙台市平均正答率ともにほぼ同等となっている。問題別に詳しく見ると、「電気のはたらき」「空気や水の性質」の問題で期待正答率からそれぞれ10ポイント以上低く、理解が十分に定着していないことと考えられる。

6年生の分析

(1) 国語

学年全体で正答率を見た場合、期待正答率を5.9ポイント上回り、仙台市の平均を1.1ポイント上回った。個人ごとに見た場合、「努力を要する（期待正答率を下回る）」と判定された児童の割合は、学年全体の20.9%で仙台市の平均21.9%を下回っている。

領域別に見た場合、いずれの領域も期待正答率を上回っている。問題別に詳しく見ると、「話の内容を聞き取る」「説明文の内容を読み取る」問題において、正答率が低い傾向が見られた。「目的に応じて文章の内容を的確に押さえながら読むこと」「話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くこと」に課題が見られる。

(2) 社会

学年全体で正答率を見た場合、期待正答率を9.5ポイント、仙台市の平均を4.7ポイント上回る結果になった。個人ごとに見た場合、「努力を要する」と判定された児童の割合は、学年全体の20.9%で、仙台市の平均26.0%を5.1ポイント下回っている。

領域別に見た場合、いずれの領域も期待正答率と仙台市の平均を大きく上回る結果になった。問題別に詳しく見ると、「調べようとする課題に対して必要な資料を考え、選択する」問題の正答率が下がっていた。「資料活用能力」に課題が見られる。

(3) 算数

学年全体で正答率を見た場合、期待正答率を10.1ポイント、仙台市の平均を3.0ポイントと、上回る結果になりつた。個人ごとに見た場合、「努力を要する」と判定された児童の割合は学年全体の15.2%で、仙台市の平均20.6%を5.4ポイント下回っている。

領域別に見た場合、いずれの領域も期待正答率と仙台市の平均を大きく上回る結果になった。問題別に詳しく見ると、「帯グラフの割合をよむ」問題の正答率が低く、「百分率とグラフ」の理解に課題が見られる。

(4) 理科

学年全体で正答率を見た場合、期待正答率を6.8ポイント、仙台市の平均を1.5ポイント上回った。個人ごとに見た場合、「努力を要する」と判定された児童の割合は学年全体の20.0%で、仙台市の平均23.6%を3.6ポイント下回っている。

領域別に見た場合、いずれの領域も期待正答率と仙台市の平均を上回る結果になった。問題別に詳しく見ると、「天気と気温」「けんぴ鏡の使い方」「おもりを使った実験」の問題の正答率が低く、十分に理解が定着していないと考えられる。

3 成果と課題

- ・ 2年生では、国語・算数において、期待正答率を上回る結果から、国語・算数とも1年生の学習内容をしつかりと身につけることができたと考えられる。とくに算数では、少人数指導やT・Tによるきめ細かい指導を継続した成果と考えられる。「聞き取る力」を高めていくことが今後の課題である。
- ・ 3年生では、算数で成績の向上がみられるが、国語の成績が下がっている。「書く能力」と「読む能力」を高める指導が必要である。
- ・ 4年生は、算数で学力の向上がみられ、少人数指導の成果と考えられる。国語と理科において2極化がみられる。個に応じた指導がより重要な課題となっている。
- ・ 5年生は、理科の成績が向上した。国語への「関心意欲」を持たせ、「話す・聞く能力」を中心に国語力を高める指導が必要である。
- ・ 6年生は、学習に対する関心・意欲も高く、全体的に学習内容の理解ができている。社会、算数、理科においては教科担任制や少人数指導による一定の成果と考えられる。
- ・ 4・5・6年生とも基礎的な内容の理解はできているものの、問題文を正確に読み取ることや、自分の考えを文章で書くことが苦手であることからつまづきが見られる。また、理科においては、観察や実験の意味を理解して取り組み事や、結果を考察することができないために学習内容が定着していないと考えられる。

II 学力向上に向けてのこれまでの取り組みの検証

1 効果的だった取り組み

- (1) 少人数、TT、グループ分けの工夫など、学習内容に応じて指導形態を適切に変え、学習内容の定着を図ってきたことにより、一人一人に目が行き届き、学力定着につながった。
- (2) 高学年教科担任制基礎教科（算数）では、担任がT1を務めることにより、スキルや宿題・家庭学習、個別学習とも関連づけることができ、効果を上げることができた。
- (3) 高学年教科担任制の空き時間を少人数指導や個別指導にあてたことで、特に下位群の学力、学習に対する意欲が向上した。
- (4) スキルタイムや習熟プリントを活用し、現在取り組んでいる単元について習熟を図ることができた。
- (5) 学習内容と関連させた宿題や、音読カードや家庭学習カードを使つての家庭学習の習慣化を図ることができた。

2 見直しが必要な取り組み

- (1) 個別指導が必要な児童に対する指導の在り方（取り出し指導，一斉指導の中での支援の手だて）
- (2) 算数のT・Tや少人数指導の充実
- (3) 高学年教科担任制でより効果を上げるための見直し
- (4) 「読む・書く能力」を高めるための，漢字，計算以外の習熟度プリントの活用

Ⅲ 課題を踏まえた今後の具体的な取り組み

〈今後のおおまかなスケジュール〉

7月上旬～中旬	学年会で検査結果を分析，学力向上プランを検討
7月下旬	学校だより，学年だより，家庭訪問で保護者に説明
8月上旬	全校の学力向上プランの検討・まとめ
9月上旬	全職員による学力向上委員会（市教委主催学力向上担当者会の内容と本校の学力向上プランについて共通理解を図る）
9月下旬～12月	研究授業（全職員による研究）
9月下旬～10月上旬	1学期の学習状況，定着の程度の分析と2学期の指導についての検討
11月下旬～12月上旬	個人面談（学習状況および家庭学習について保護者と話し合い）
1月	算数の学力向上，授業改善について研究のまとめ
2月	高学年教科担任制・個別指導・ICT活用についての反省，検討 平成22年度教育計画作成

1 児童の学力向上に向けて

- ・ 国語力（言語活動）の向上。作文を書く活動，読書活動の充実。漢字や言語事項の習熟タイムの確保（国語辞典や漢字辞典活用の習慣化，漢字練習の時間の確保など）。
- ・ 知識の確実な定着を図るための小テストや学習プリントの活用。
- ・ レディネステストを行い，その結果を踏まえた復習を取り入れる授業，習熟度別の少人数指導の実施。
- ・ 学習プリントやノート指導などの形成的な評価の日常化，定着が不十分と思われる学習内容の繰り返し指導。
- ・ 全教科における，積極的なICT教材の活用。
- ・ 「早寝」「早起」「朝ご飯」の奨励。

2 教員の指導力向上に向けて

- ・ 授業改善のための教材研究や話し合い（学年での話し合いや，教材研究の時間の確保など）。
- ・ 校内研究の充実（算数の授業改善，ICT教材の活用の工夫）。
- ・ 校内研修の充実（ICT教材の効果的活用法）。

3 家庭学習の定着に向けて

- ・ 保護者からの情報（家庭学習の様子や要望等）も取り入れながら，個に応じた課題も工夫していく。
- ・ 自主的な家庭学習に取り組ませるための指導の工夫（効果的な宿題プリントや音読カードの作成，家学習ノートの効果的な使用法を探る）。